

研修報告書 No.27

県外病院初期臨床研修医

研修先：医療法人聖真会 渭南病院

特定医療法人長生会 大井田病院

令和2年2月の1か月間、私は渭南病院、大井田病院及び大正診療所において地域医療研修をさせていただきましたのでここにご報告させていただきます。

渭南病院では、研修開始早々に拠点病院への救急車搬送を経験させていただきました。病院を出発してから搬送先までは1時間程度かかりましたが、幸いなことに搬送する患者さんの容態は落ち着いていたため、焦ることなく搬送することができました。その後もヘリ搬送患者さんのヘリポートまでの搬送に付き添わせていただく機会もありました。陸路で行くと3時間かかる病院までがヘリでは30分と大変早いですが、病院を出てから搬送先の病院までの時間を考えると1時間程度とやはり遠いと感じました。搬送開始前にも、搬送先の決定や搬送車両の準備などが必要となるため搬送決定の決断が遅れると予後が大きく左右されてしまうと感じました。

また、普段の研修では救急外来や初診外来で診察をすることはあっても定期外来をすることはなく、処置後の経過を診ることはほとんどなかったのですが、外来診療をさせていただき、自分で処置をした患者さんの経過を見たことが新しい経験でした。退院前の患者さんの自宅に住宅評価へ伺ったことも忘れられません。患者さんと共に住宅へ向かい、室内の段差や使う椅子の確認、寝室、風呂、トイレの確認をしました。実際に座ってもらい、動線上に手すりがあるのか、病院との違いはどうか、自宅退院するために習得すべきことは何かを話しながらか見させていただき、家族の方の不安な点も聞き取りました。今までは、本人のADLや家族の話のみで退院先を考えていましたが、実際にケアマネージャーや理学療法士の方々と訪問し自宅退院に向けて整備をされている姿を見て、患者さんの退院後の生活を想像することができました。

大井田病院では、訪問診療に多く同行させていただきました。落ち着いている方も多かったですが、訪問診療中に地域のケアマネージャーや訪問看護師から連絡が入り急遽往診が追加されることもありました。通常外来の合間にやってくる急患と同じで、自宅が広い外来診察室のように感じました。また、乳児健診終了後に全員で振り返りを行っていたことも新鮮でした。検診が終了し普通なら片付けを開始するところを、それぞれが気になったことを持ち寄り、情報共有することでより細かくフォローがされていました。それぞれの職種で親子を見る視点が少しずつ異なっており、親御さんからの質問も相手により多様で、診察室だけでは知ることのできない情報も多くとても勉強になりました。

大正診療所での研修は 2 日間と短かったですが、診療所内に病床もあり診療のみではなく地域住民のための健康維持事業もされており、今後の医療体制の最先端をされているようでした。

どの研修先でも、外来のみならず訪問診療を積極的にされていました。療養病床が足りないため自宅を病状が落ち着いている人の病床にするという先生方の考えは、これから高齢化が進み病床不足が懸念される中で今ある資源を活用する一手だと感じました。費用面や設備の問題もありますが、ここに AI やタブレット端末を用いての遠隔診療が可能になれば訪問診療の回数を減らし在宅療養できる患者数も増えるのではないかと考えました。

また、休日にはダイビングや足摺岬や四万十川観光などをし、幡多地域の豊かな自然を満喫して普段の研修とはまた違った時間を過ごすことができました。幡多地域の患者さん達はとても暖かく、方言を理解するのは難しかったですが病棟や外来でお話しできるのが癒しでした。今後も機会がありましたら地域医療に関わってみたいと思うことができました。

最後になりましたが、ご指導いただきました渭南病院、大井田病院及び大正診療所の先生方、スタッフの方々に感謝申し上げます。また、このような大変貴重な経験を与えてくださった高知医療再生機構の皆様、ありがとうございました。